

Title	[博士(平成6年度)学位記号番号追記]
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1995
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.42 (1995.) ,p.38-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学事報告 第40号学事報告追記
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000042-0038

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

第826号 田村 裕子
学志望動機の関係
留学生受け入れ政策について
の研究—「留学生10万人計
画」を中心として—

第827号 童 偉鶴
中国近代化における福沢諭吉
思想の意義
—近代化の師匠を求めて—

博士（平成6年度）

*本紀要第40号の学事報告において、平成6年度分の学位記号番号が記載されていなかったため、改めてこれを以下に示す。

社会学博士

甲 第1327号 澤井 敦

マンハイム知識社会学の研究

教育学博士

甲 第1328号 鹿毛 雅治

内発的動機づけに及ぼす教育評価の効果

博士（平成7年度）

教育学博士

甲 第1378号 倉八 順子

コミュニケーション・アプローチが
学習意欲に及ぼす効果

〔論文審査担当者〕

主査 早稲田大学教育学部教授
同大学院教育学研究科委員
元慶應義塾大学大学院社会学研究科委員
教育学博士 並木 博
副査 上智大学外国語学部教授
文学修士 吉田 研作
副査 慶應義塾大学文学部教授
同大学院社会学研究科委員
教育学修士 富安 芳和

内容の要旨

本研究は、我が国で伝統的に行われてきた文法中心の英語教授法（グラマティカル・アプローチ：GA）と意志伝達能力の習得を重視する新しい教授法（コミュニケーション・アプローチ：CA）とを比較検討した教授心理学的研究である。本研究における一連の実験授業は、著者を含むプロジェクト・チームによって行われたものであり、そこで得られた膨大なデータのうち、著者は特に教授法と学習意欲の関連性に焦点を合わせて詳細な分析を行い、コミュニケーション・アプローチという新しい教授法の教授心理学的特質を明らかにした。

本論文は4つの章より成る主論文、学会機関誌及び紀要にすでに発表済の論文8編をまとめた別冊の参考論文集、及び同じく別冊の実験授業の教材集の三部作である。

主論文第1章「外国語習得における学習者の情意要因」では、外国語習得のメカニズムの因果モデルを1970年代より現在に至るまで幾つかの時代区分によって展望し、外国語学習の規定要因であり、また結果でもありうる学習意欲の理論的位置づけを行い、それに続いて学習意欲の操作化の方向を探り、この概念の実験的取扱いの見通しを明らかにしている。

なお、この章の内容の一部は、教育心理学研究（第42巻、第2号、1994年）に「第二言語習得における個人差」と題する論文として掲載されており、この中で著者は外国語教授法を第二言語習得理論、認知能力的適性、情意的要因、及び適性処遇交互作用（ATI）との関連で展望し、著者の行った一連の実験的研究の意義の再確認を行っている。

第2章「コミュニケーション・アプローチと学習者の情意要因」では、1970年代にヨーロッパに誕生したコミュニケーション・アプローチの歴史をたどり、言語理論との関連性を論じ、教授心理学の観点より検討を加えた上で、具体的な教示手続を述べ、さらにこの教授法と学